熊歯会報

8
2007

Kumashi Kaihou

2007年8月15日
No.616

熊本県歯科医師会

熊歯会報 8月号

2007

― 表紙に寄せて ―

夏と言えばやはり海ですが、海岸をカメラを持って歩き回ると、不審に思われる昨今です。

びくびくしながら撮影した家族のほほえましい光景です。

（天草の某　海水浴場）

H.K

歯科医師の倫理綱領

われわれ歯科医師は、日頃より歯科医学および歯科医療の研鑽を通じて培った知識や技術をもって、人々の健康の回復と疾病の予防のために貢献するものである。

一、専門職として歯科医学と歯科医療の発展のために尽くし、医療倫理の実践に務める。

一、専門職であることを念頭に、法を遵守し適切な説明を行い、常に愛情を持って患者のために社会的使命を果たすように努める。

一、自己の知識、技術、経験を社会のために提供し、社会福祉および国民の健康向上のために努める。

社団法人　日本歯科医師会

もくじ

巻頭言（調査・IT　高松尚史）……3

第3回理事会 ……4・5

委員会だより（広報・学術）……6・7

学術レポート ……8～10

郡市会だより……11～14
（宇土・上益城・天草・玉名・荒尾・阿蘇）

ニューグルメハンター ……14

新入会員・訃報……15・16

会務報告……17～19

「情報収集能力」

調査・IT 委員会　高松　尚史

皆さんは「骨太の方針」はご存じでしょうか？2001年１月に、それまで当時の大蔵省が握っていた予算編成の主導権を内閣に移すため、当時の森内閣総理大臣を議長とする経済財政諮問会議が内閣府に設置されました。骨太の方針とは、その会議より答申を受けて閣議により決定されたものでありますが、小泉内閣の2001年６月に答申された「経済財政運営及び経済社会の構造改革に関する基本方針」の際に使われた言葉でした。しかし、小泉内閣総理大臣の退陣後も「骨太の方針第○弾」として呼ばれ、製作の継続性が謳われています。つまり、ここから毎年６月に基本方針が答申され、経済政策・財政政策の柱となるうえ、実質的に来年度予算編成の一部を前倒ししている面もあります。今年も６月19日に「骨太の方針2007（第７弾）」が発表されています。今回から「経済財政改革の基本方針」とあらためられましたが、この内容に基づき各省庁は予算を作成し、いろいろな政策を実行していくわけです。

レセプト完全オンライン化に関する記載は、政府・与党医療改革協議会により2005年12月１日にまとめられた「医療制度改革大綱」の中に2011年から開始するように、いきなり明記されました。しかし、その小さな火種はすでに2001年の「骨太の方針第１弾」の中にみられ、それから「骨太の方針」が改訂されるたびにだんだんとその火種は大きくなっていきました。さらに今回の「骨太の方針2007」では2011年のレセプト完全オンライン化のみならず、2010年４月でのレセプトオンライン化率の目標を80％とするという数値目標まで盛り込まれました。つまり、私たちが情報として受け取った時には、すでにある程度の政策が決定され、その方向性に異を唱えることはできないような状況にあるのです。早くから、アンテナをのばし、情報に関して積極的に取得していく必要性があるようです。

調査・IT 委員会は、このような情報の取得や調査・研究を早く・わかりやすく会員の先生方にお伝えできるように努力したいと思います。

ちなみに IT という用語も変化してきています。IT（information Technology）という用語は、パソコンや情報に関する技術の総称として使用されていますが、国際的には ICT（Information and Communication Technolgy）の方が通りがよく、総務省の「IT 政策大綱」が2004年から「ICT 政策大綱」に名称を変更するなど、日本でも定着しつつあります。

理事会報告

「県民の歯と口の健康を守る」という気持ちで会務を

― 第３回理事会 ―

６月26日（火）午後５時から県歯会館第１会議室にて堤会長ほか全役員、有田連盟幹事長出席のもと議長を堤会長、議事録署名人を宮坂・犬束理事として開催された。

堤会長あいさつ

私達の任期も半分経過しようとしております。所管ごとに、ご尽力いただきありがとうございます。歯の衛生週間行事が県下各地で開催されました。熊本市の上通アーケードにおけるイベントは、以前は本会所管で開催しておりました。以前は旧会館で歯科相談などを行っておりました。

鬼塚前会長時代に、せっかくするのなら人目に付く場所で開催したらどうかとなり、上通りでイベントを開催するようになりました。新市街で開催した時もありましたが、やはり上通りが条件的に実施しやすいようです。何でも経験してみて試行錯誤を繰り返すことで何が求められているのかというものは分かってきます。100周年式典の時にも申し上げましたが、形あるものは時代とともに変化していき、変化しないのは人の気持ちだろうと思います。役員として一貫して変わらないのは、「県民の歯と口の健康を守る」というように県民のために役に立ちたいという気持ちだと思います。今後もその気持ちを持って愚直に会務運営を行って行きたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

会務報告　（自：５月25日～至：６月21日）

総　　務：理事会、常務理事会、日歯理事会、日歯常務理事会、100周年記念式典・祝賀会、新任民事調停委員研修会
学　　術：学術講演会
社会保険：各郡市社会保険担当者会、保険集団指導
地域保健：歯の衛生週間事業、青壮年期の歯科疾患削減モデル事業
厚生管理：グループ保険
広　　報：熊歯会報、歯の祭典取材
学校歯科：歯の祭典、県学校保健会理事会並びに評議員会
医療対策：医療相談苦情事例報告、日歯歯科医療安全対策委員会
センター・介護：休日救急・障害者歯科診療
学　　院：臨地実習
国　　保：組合地区国保運営協議会

会務報告その２

１．後期高齢者への歯科診療体制作り
　１）口腔機能向上研修
　２）医科との連携
　３）在宅療養支援診療所との連携
　今後、松岡・八木理事等をメンバーとした会合を開催し、今年中をめどに検討していくこととした。

２．退会会員
○林　嘉仁 会員（菊池郡市　一般会員、５月21日付 死亡）
○小柳 大明 会員（熊本市　一般会員、６月７日付）
　障害一級による歯科医師免許証返納
○井上 熊男 会員（熊本市　一般会員、６月14日付 死亡）

○河上 恭子 会員
（勤務医会員 3月31日付）
○坂元 亮一 会員
（準会員 3月31日付 人吉総合病院退職）

3．職員人事

○異　動
平成19年5月21日付
村上いずみ　本会総務課
（会計徴収担当）
平成19年6月1日付
沢田 雅治　本会総務課 事務局長
奥村 和久　学院課 課長
田代 祐子　国保課 主任
岡　千香子　本会総務課（会計担当）
平成19年7月1日付
清水あゆ子　本会総務課係長
（労働保険担当）
田尻　康代　事業課（ＫＤＭＵ担当）

○退　職
事務局長　中島　守
平成19年5月31日付
学院課専任教員　村木順子
平成19年6月11日付

4．熊本県の検査

平成19年10月1日（月）午後1時30分から午後5時まで、県医療政策総室による公益法人の業務及び財産の状況の検査が実施される。

5．推薦依頼

○熊本県医療・保健・福祉団体協議会企画委員　副会長 上田　忠

6．熊本小児歯科懇話会（第53回例会）開催に伴う後援

7．熊本県警察医会設立20周年記念フォーラム「医療と警察」への後援依頼

8．肥後銀行からの寄付

ＡＥＤを1台寄付してもらうこととした。なお、次回理事会時にでも再度ＡＥＤの実習を行うよう手配することとした。

9．業者による会館の1年点検

6月21日に建築・設計業者による1年点検が行われ、改善箇所については、6月中にも是正が行われる。

10．学術講演会

創立100周年記念県歯学術講演会は、8月5日（日）午前10時30分より県歯会館において、ＧＣと共催で開催する。

さらに、9月29日（土）午後4時より県歯会館において、歯科診療と抗凝固療法についての講演会をエーザイとの共催、県医師会の後援で開催する。

11．各種委員会の担当職員

事務局の人事異動に伴い、委員会の担当職員が若干変更され、新たに正担当を補佐する副担当を設けて対応する。

12．各会計5月末現況

西野常務より詳細に説明された。

13．その他

○全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会研修会が、7月8日（日）熊本テルサにおいて開催される。参加希望の先生は、事務局まで申し出ることとした。
○デンタルタイムズ21と日本歯科新聞に、本会の100周年記念式典・祝賀会の記事が掲載されていることが報告された。

協　議

1．新入会員の承認　〔承認〕

一般会員2名の入会を承認した。

2．平成18年度各会計収入支出決算（案）
〔一部承認〕

一般会計決算（案）、口腔保健センター決算（案）については、記載の数字に誤りがあるとの指摘により保留とし、修正の上で次回理事会に再度提出することとした。その他の会計決算（案）については承認し、9月の臨時代議員会に議事として提出することを承認した。

3．その他

4．7月当面の行事予定

小島副会長より確認された。

（広報　宮坂　圭太）

ご存知ですか～歯の健康ナビ最前線

― 全国放送で熊本県のとりくみを紹介 ―

広報委員会

宮坂と山本アナウンサーとの対談

７月17日（火）日本テレビ系列31局ネットの「ご存じですか～歯の健康ナビ最前線～」という番組に出演した。この番組は日本歯科医師会監修、ライオン提供の毎週火曜日の帯番組で午前11時25分から30分の放送であった。

「歯科衛生士の歯りきり劇場」と題して、歯の健康文化賞、歯科モニター制度、8020推進員の活動をＶＴＲや写真を素材に宮坂広報担当がコメントをつける形で収録を行った。７月１日（日）午前11時から、汐留日本テレビ32階タワートップスタジオで山本真純日本テレビアナウンサーとの対談形式で収録した。山本アナのナレーションと宮坂のコメントの収録は１時間半程度で終了した。

内容は「くまもと歯の健康文化賞」を昨年度受賞した山鹿市の「歯りきり隊」が肥後にわか形式で、今年度受賞者の徳永武久8020推進員が劇団「歯ッピー北保」の劇を通して、老人や園児に「おもしろく、おかしく」をモットーに住民の生活の場に出向き啓発活動を実施しているという紹介だった。

最後に、全国でも例をみない「歯科モニター制度」を紹介して、具体的に個人情報保護に関するもので「患者さんを番号などで呼ばないで名前で呼んだほうが心が通う」という意見や、「スタッフを大切にする医院は自分たち患者も大切にしてくれるのでは」といった意見を紹介した。

事前の素材のやりとりとメールでの原稿修正、収録１時間半という番組つくりであったが、興味深いアカデミックな素材があればまた熊本県歯科医師会として番組に協力することを日テレ栗田チーフディレクターと約束し終了した。

（広報　宮坂　圭太）

日本テレビ32階　タワートップスタジオ

「口腔カンジダ症の病態と治療」
口の違和感・舌の痛み・口の乾燥

― 100周年記念学術講演会 ―

学術委員会

６月23日（土）午後５時より、県歯会館４Ｆ大ホールにおいて、熊本大学大学院医学薬学研究部総合医薬科学部門感覚・運動医学講座顎口腔病態学分野、篠原正徳教授を講師にお招きして、「口腔カンジダ症の病態と治療」について講演いただき160名超の参加者があった。

小島副会長の挨拶後、講演が始まり、最初に口腔カンジダ症の臨床所見とリスク因子、問題点について話された。

訴えで最も多いのは、灼熱感、接触痛、刺激痛、味覚異常などであり、口腔症状としては、白色偽膜の形成、発赤、びらん、潰瘍、両側の口角びらんなどを認める。

リスク因子としては二つに分けられる。

全身的なもの（免疫力の低下など）

１．悪性腫瘍での化学療法や放射線療法
２．骨髄移植後　３．自己免疫疾患、ステロイド長期使用　４．HIV　５．高齢者

局所的原因によるもの

１．口腔乾燥症　２．口腔内びらん、潰瘍
３．義歯　４．口腔の清掃不良など

問題点として、カンジダは常在菌であり、存在することは何も問題ないが、異常増殖した場合が問題で、その原因が全身的なのか？局所的なのか？両方なのか？その診断と原因除去が重要となる。全身的な問題点があれば医科との連携が必要であり、局所的であれば口腔内環境を改善する必要がある。単に抗真菌剤の投与だけでは対症療法的で、本来の治療とはなりにくいと述べられた。

次に局所的な因子の中でも最も頻度が多い口腔乾燥症について話され、唾液分泌低下患者の約40%の患者に口腔カンジダ症は発生し、

口腔内から全身的な問題を指摘出来るようになること

口腔カンジダ症の臨床所見・リスク因子・問題点を講演

唾液の分泌量、抗菌作用、PH 緩衝作用などが関係することを詳しく説明された。分泌量に関しては、たとえ加齢的な唾液腺萎縮により80歳で成人の１/２に低下しても本来の機能は果たされるが、そこに医原性の問題（多量の薬剤の投与など）が重なってより乾燥症を招いていることが多いとのことであった。

また、「口が渇く」と訴える患者に、「水を含むように、多量に摂取するように」と指示しても、成分が違うのであまり意味がなく、いくつかの治療薬剤があるが、最も良いのは食事であり唾液分泌を促進させる食品であると指摘された。

患者の色々な訴えのなかで「口の中が痛い、口内炎」という訴えだけで、短絡的にステロイド軟膏を処方すると、口腔カンジダ症の場合かえってカンジダ菌の増殖を助長させ、症状が悪化することが多く、ステロイド軟膏の処方は慎重にしなければならないこと、

また、舌の痛みに関しては一般的に「舌痛症」が挙げられるが、40～50%はカンジダ菌が検出され、カンジダ症による舌の痛みも考えられるため、鑑別診断（カンジダ菌のスクリーニングテスト）が重要であると解説された。

歯科においては局所的なことに目がいきやすいが、カンジダ症は「痛み」と同じで健康のバロメーターになるため、常に注意しながら、口腔内から全身的な問題を指摘出来るようになることが、これからの高齢化社会のなかでの歯科のあり方の一つではないかと考えさせられた。

（学術　清水　幹広）

学術レポート

口腔粘膜疾患症例報告
粘液のう胞の１症例について

森　　智昌（鹿本郡市会員）

緒言

近年、国民の生活において安全・安心にもとずく商品やシステムが以前よりも増して求められている。とりわけ歯科医療においても予防を含めた　安全な治療や生体に優しい安心な材料の使用などが推奨され、緊急治療、早期治療のみならず、今や戦略的な予防やメインテナンス治療などが普及しつつある。他方、口腔内腫瘍性病変も含めた口唇、頬、舌、歯肉などの口腔周辺軟組織の病変を審査し適切な医療情報を提供する、または第二次予防、第三次予防としての障害の阻止や機能回復などを行う事もお口を守るものとして歯科医師に要求されている。

そこで、平成18年度日歯生涯研修セミナー＆会員発表において口腔粘膜疾患症例報告として平成10年から平成17年の間に当院において経験した主に口腔軟組織に発生した腫瘤様病変を集計し、その症例を供覧した。発表の中から特に臨床的によく遭遇し、その治療法も比較的明解な粘液のう胞の１症例について報告致する。

症例

患　者：52歳　男性　初診　1998年５月10日

主　訴：下顎部分床義歯がゆるい

現病歴：下顎に装着した部分義歯がゆるくなり、歯科受診した。５～６ヶ月前頃下口唇部に違和感を覚えるも、今回歯科医師により下口唇部の腫瘤を指摘されるまで放置していた。

既往歴：特になし

現　症：

・全身所見　体格、栄養ともに中等度、他に特記事項は認めなかった。

・口腔外所見　顔貌は左右対称で下口唇の翻転傾向も著明でなく、両側顎下およびオトガイ下リンパ節は触知せず、他に特記事項は認めなかった。

・口腔内所見　$\overline{7654\ \ 1\ |\ 12\ \ 4567}$　、PD。$\overline{32|}$ と $\underline{2|}$ との被蓋関係が切端咬合傾向。上顎歯牙は数ヶ所補綴処置は施されているが $\underline{7\ \ \text{──┼──}\ \ 6}$ まで残存。右側下口唇内側部に直径おおよそ９ミリの半球形状を呈した弾性軟の膨隆を認めた。

臨床診断：粘液のう胞の疑い

治療方針：咬合診査、部分義歯調整、のう胞摘出術

処置および経過：同年５月10日、主訴に対する部分義歯調整（鈎歯調整、咬合バランス調整）後、上下右側前歯の被蓋調整を行い下口唇部の腫隆様病変について症状、原因、治療法方を説明し、同月16日下口唇部局麻下にて腫瘤様病変の摘出術を施行した。

腫瘤境界をマークし膨隆の中央部に浅い切開を加え、切開した粘膜の一端を小型の有鈎ピンセットで把持、牽引しながら小型の粘膜剥離子を用いてのう胞を周囲組織から鈍的に剥離し、のう胞を一塊にして摘出した。手術野に露出した２個の小唾液腺も再発予防のため摘出した。なお、のう胞は２％ホルマリン液にて保存し速やかに病理組織検査を依頼した。

術後８年を経過しているが、現在のところ再発などの兆候は認めない。（写真１－４、図１）

摘出標本所見　摘出標本はおおよそ６×６ミリの球形で弾性軟を呈し、内部に内溶液を含んでいるように観察された。

病理組織学的所見（写真５）　粘膜上皮直下に小腔の形成があり、粘液が貯留している。その周囲には泡沫細胞、多形核白血球の浸潤、充血した多数の毛細血管を含む肉芽組織が形成されている。

病理診断　Mucocele of the lip

まとめと考察

今回、平成10年から平成17年の間に19症例の粘液のう胞を経験し部位、性別、年齢などを集計した。部位別では下口唇部11症例、舌

下面周辺部６症例、頬粘膜部２症例で上口唇部や歯肉部には認めなかった。性別では男性９名女性10名、年齢では20歳未満９症例、20歳以上10症例で性別、年齢での差はほとんどなかった（図２）。粘液のう胞は成書によると唾液が組織中に貯留してできたのう胞で、下唇が最も好発位であるが、舌、口蓋などにも小唾液腺が存在する部位には発生し、治療法は周囲を切開後、鈍的に剥離し、のう胞周囲の小唾液腺も含めて切除する（日常の口腔外科、古森孝英より引用）と記載されている。当院での臨床統計もほぼ同様であることからも、臨床所見や治療法方は確定されており、その予後も良好であると考える。

一方、粘液のう胞の発症の原因は粘膜への外傷などの機械的刺激（慢性的なものも含む）が主な原因であることから、その治療法として外科的切除のみでなく、原因の除去（被蓋関係や咬合の調整）にて病変は改善される症例もあった。また粘液のう胞は痛みなどの不快な自覚症状が少ないことから、患者さんの第一主訴として来院されない場合もあり、歯科医師による診察・発見・治療提案となることもあるので患者さんに対して手術行為にたいする理解と協力を得なければならない。外科的切除においてはメスの使用のみならず、炭酸ガスレーザーの使用も大変有用であった。

最後に、予防をスタンダードとする診療姿勢のなかにあって、歯牙および歯周組織をはじめとして口腔周囲領域の健康を守るのは私たち歯科医師であるという自負と責任感を強く感じつつ、患者さん自信によるセルフケアーをいかに促していくかを考えさせられた。今回、歯科医師によるサポートのひとつとして粘液のう胞の１症例をご報告したが、予防をスタンダードにするためには患者さん自身によるセルフケアーを推進し、私たち歯科医師およびスタッフによるサポート体制を強化せねばならぬと反省した。

写真１（初診時）

写真２（マーキング）

写真３（中央より切開）

写真４

図１　切開法　近年は炭酸ガスレーザー（２W,CW,CONT)を用いることが多い

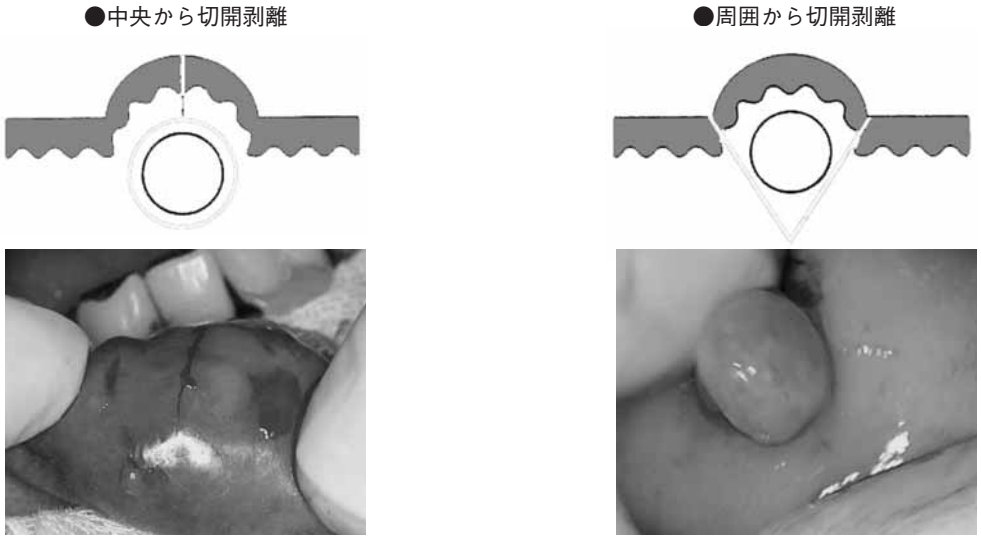
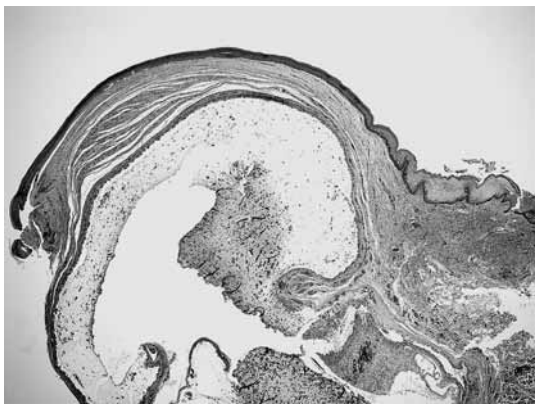
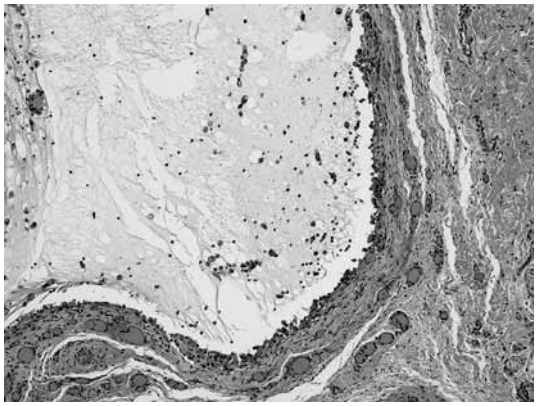


写真５　HE 染色　病理組織像



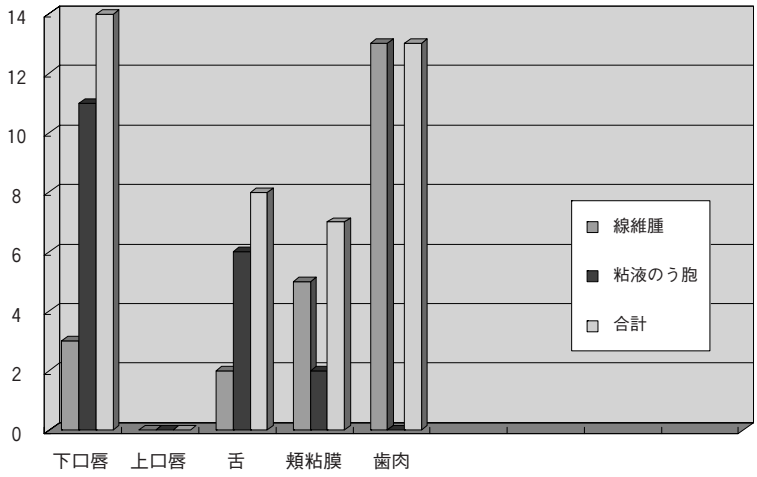
弱拡大像



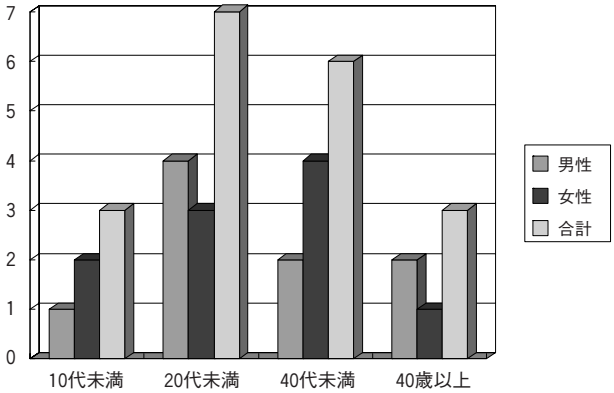
拡大像

Mucocele of the lip

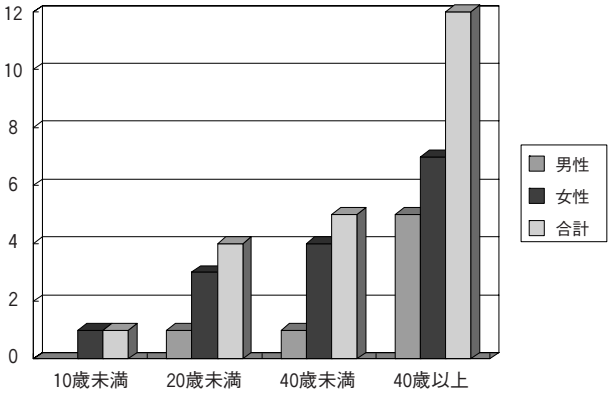
図２　粘液のう胞の部位および年齢分布
（18年度会員発表では線維腫についても同時発表した。）



粘液のう胞：年齢・男女分布



線維腫：年齢・男女分布



郡市会だより

子どもからお年寄りまで

― 歯の衛生週間 ―

6月9日（土）宇土シティセンターコートにおいて恒例の、「歯の衛生週間事業」が開催された。開始前から多くの家族づれで賑わい大盛況であった。

午後1時から5時まで、会員歯科医（10名）が2交代で担当し、各医院から歯科衛生士6名が参加した。来場者にはアンケートに記入してもらい、歯ブラシや歯磨き粉など口腔ケア用品やパンフレット等を無料配布した。会員歯科医による歯科検診や歯科相談、歯科衛生士によるブラッシング指導やフッ素塗布は各コーナーを設け対応した。お口の健康についてのポスターの展示も行った。フッ素塗布はとくに大人気で行列ができていた。ちょうど老人会の帰りだというお年寄りが歯科相談に訪れ、熱心に質問されていた。

毎年多くの親子連れで賑わうが、今年はお年寄りの来場も多く、ある方は

歯ならびはどうですか？

「歯があるおかげで毎日楽しみながら生きていける。何でも食べれるってことは幸せなことですね。」と笑顔で答えてらしたのが印象的だった。

これからも地域住民の皆様へ歯科保健に関心をもっていただけるように、こちらから情報を発信していこうと思う。（アンケート記入総数118件、来場者総数100余名）

（青山　泰子）

宇土郡市

祝　☆　還　暦

― 還暦の松本会長を囲んで ―

6月15日（金）午後8時より宇土市の『新心』において“松本会長の還暦祝賀会”が催された。

まず勇副会長が開会のあいさつとして、「松本会長は皆さんもご存知の通り、卓球で日々体を鍛えていらっしゃいます。きっとこの中で反復横とびをさせたらおそらく誰もかなわないでしょう。還暦を迎えられ、ますます若々しく活躍の場を広げていかれる会長は素晴らしいと思います。本日は本当におめでとうございます。」と述べた。

赤い頭巾とちゃんちゃんこ姿で記念撮影

続いて会員を代表して森　義和専務理事からお祝いの品と花束が贈呈された。松本会長は、「約3年前、体質改善のためにと始めた卓球ですが、今では週4回練習するほどになり生活の一部となっています。おかげで体調もすっかり良くなりました。学生時代の気持ちをふたたび味わっている気がします。本年度の目標は、私事ですが数ヵ月後の大会で良い成績を残すこと、それと郡市会のこれからのあり方について結論を出すこと、この2つに努めていきたいと思います。」と述べた。中野監事の乾杯の音頭で宴会が始まった。

宴のなかば、赤い頭巾にちゃんちゃんこ姿で松本会長が再登場し、会はいっそう盛り上がり、最後に会長を囲んで全員で記念撮影を行った。終始にぎやかな還暦祝賀会だった。

（青山　泰子）

郡市会だより

福岡と呼子を満喫！

― 臨時総会および親睦旅行 ―

上益城郡

6月16、17日（土、日）11名参加のもと臨時総会と親睦旅行が行われた。2時30分に、最初の目的地である福岡県の九州国立博物館へ向け出発した。九州一と言われる博物館だけあって、かなり広く展示品の数も相当なものであるが、スクリーンに映し出される九州古代歴史の放映は、圧巻であった。この後、宿泊先であるアークホテル博多ロイヤルに向かい、6時より臨時総会がひらかれた。河端副会長が開会の辞を述べ、矢毛石会員を議長に選出した後、まず江藤会長より「7月に参議院選挙がありますが、ぜひとも我々の職域代表が票をとれるように御協力頂きたい。また、今年から始まる行事が幾つかございますので後ほど協議を宜しくお願い致します。」と挨拶があった。　この後報告事項として、1）石井みどり後援会　2）農林水産省・クレアイベント（食と健康）　3）上益城郡学校保健会　4）各委員会報告　5）宇城三郡市合同役員会　6）上益城郡地域保健医療推進協議会第5次地域計画検討部会委員　7）三師会合同役員会　8）DV対策協議会

おいしいイカでまた一杯

また協議事項として、1）上益城郡地域歯科保健連絡協議会　2）親子会員　3）家族・従業員レクレーション徴収金　4）笑顔ヘルCキャンペーン　5）年間行事計画日程案について、それぞれ話合われた。この後、懇親会が行われ酒宴は大いに盛り上がり、2次会は中州を堪能最後はラーメンで締めた。

2日目は、呼子まで行き朝市で買い物をした後、おいしいイカの活き造りを食べながらまた一杯飲んで午後5時に帰路についた。

（佐藤　昭彦）

昨年より200名多い来場者

― 健康フェスタ ―

天草

梅雨の気配が全く感じられない6月9日（土）、天草市民センター体育館において「天草市健康フェスタ」が行われた。

今年は天草市として合併して2年目で、各地域にも浸透し昨年より200名程多い約700名の来場者があった。各コーナーの内訳は検診コーナー331人、口の中のばい菌を見るコーナー81人、ブラッシングコーナー271人、フッ素塗布コーナー270人、その他身体測定コーナー、骨硬化度測定コーナー、食生活チェックコーナー、運動の紹介コーナー、健康相談コーナーと10種類。またスタンプラリー形式で4箇所のシールを集めると景品と交換ができ、子供たちにはたいへん好評だった。

お口の中はバイ菌がいっぱい

（槌本亮二郎）

郡市会だより

基本に忠実な診療を心がける！

― 玉名郡市学術講演会 ―

玉名

6月23日（土）16時から玉名市文化センターにて本会会員で熊本市開業の川嵜俊明会員を講師に招き「今後の歯科医療の方向性」という演題で講演を行って頂いた。

講演では、まず現在の歯科界の状況は様々な材料・理論・技術の進歩により大きな変化を求められている時期であり、インターネットの普及に伴い患者さん側からの要求もこれらの情報を元に高度なものとなってきている。これらの要求を満たすために私たち歯科医療従事者がやらなければいけないのは、基本に忠実な診療を心がけること、基本があってこそ様々な応用が効果がある、昨今の新しいとされる情報に惑わされずに、予知性の高い医療を提供しなければならないということであった。

その後各論の話になりラミネートベニア、

予知性の高い医療を

メタルセラミック、オールセラミックにおける前歯部補綴の考え方や、支台形成時における歯髄保護、支台形態とプレパレーションの基本、歯周組織に対する配慮の仕方といったことを話された。構造力学的、生物学的、審美学的これら全ての要件を満たすことが重要ということを症例を用いて話をされた。

2時間半という講演時間であったが、長さを感じない盛りだくさんの内容であった。最後に感謝状の授与があり講演を終了した。

（山本　浩喜）

市民の歯科検診

― 健康福祉まつり ―

荒尾

6月3日（日）午前10時より荒尾総合文化センターにおいて「いきいきかいてき　元気な荒尾！」と題し、第4回荒尾市健康福祉まつりが開催された。

この催しは市民の健康に関する意識を向上させるため医療・福祉関連団体が一同に会し、展示、講演などを行う健康イベントで荒尾市歯科医師会も毎年参加している。

歯科医師会コーナーでは衛生士会の協力のもと無料歯科検診、歯と口腔の健康相談、ブラッシング指導、フッ素塗布等を実施した。

当日は会場直後より多くの来場者が歯科コーナーを訪れ、午後3時の閉会までに昨年を上回る414名が歯科検診を受けた。またこの日は日曜日とあって家族連れが多く、近隣の市

ハミガキは楽しいな！

や町からの来場者も多く見られた。検診時に口腔に関する様々な質問も寄せられ市民の関心も年々高まってきていると感じられた。

このようなイベントを通して地域住民と関わりを持つことで地域のデンタルＩＱ向上へ寄与できれば幸いである。

（白井　徹郎）

郡市会だより

継続は力なり

― 第12回阿蘇の歯まつり in おぐに ―

阿蘇

6月23日（土）小国ドームに於いて、阿蘇の歯まつりが小国町立宮原保育園児による開会宣言により幕を開けた。

よい歯の高齢者及びむし歯のない子どもの表彰、歯に良いおやつの紹介等が行われ、またアトラクションでは、歯科衛生士会による健口体操、小国幼稚園児によるマーチング、婦人会によるフラダンス、老人会による舞踊が行われた。14：30からは小国町歯まつり実行委員会、小国町食生活改善推進協議会ひまわり会の皆さん、阿蘇郡市歯科医師会、衛生士会、技工士会、また各診療所のスタッフの協力のもと親子歯みがき、フッ化物洗口、塗布、体力測定、健康相談、歯肉炎・歯周病予防、歯によいおやつ展示、試食、栄養相談、技工士コーナー等が10ヶ所のブースで行われた。

親子連れの来場者が多かったせいか、ブラッシングやフッ素コーナーのブースには歯の健康に関心をもたれている親子が集まっていたようだ。

しかし、歯科医の白衣姿…といえば子供たちにとっては恐怖の対象!?でもあり、遠巻きに見ている子もいたようです。技工士コーナーでは、恐竜の石膏模型型への絵付けが子供たちには大好評だった。

小国幼稚園児によるマーチング

イベントの終盤には小国町から提供された豪華賞品をかけて○×クイズが行われ、「第12回歯まつり in おぐに」も終わりを迎えた。

後日、行われた歯まつり反省会では、いろんな意見がでたが、毎年開催地により会場が変わることで、歯まつりの形、やり方も変えなければならないということが見えてきたようだ。これも過去11回行われてきた歯まつりも各地区をすべてまわり、昨年から２まわり目になったということ、すなわち過去の経験が豊富になった事が大きいようだ。

“継続は力”なり…でしょうか。

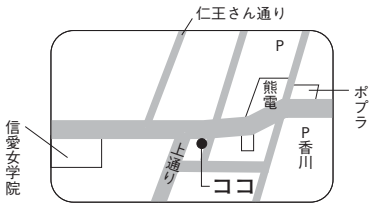
（馬谷　　真）

ニューグルメハンター

串喜楽

住　　所　熊本市南坪井6-10
営業時間　午後６時～11時
電　　話　096-359-3631

●店の雰囲気、客層（どのようなお客さんが多いか）
　サラリーマン・近所の人が多いです。
●収容人数・席数
　20人位　座敷あります
●店長・女将さん・ご主人の紹介
　ご主人と女将さん　２人３脚で20年
●料理の種類・特徴・おすすめ料理・お酒の種類・コース料理の有無
　串料理　１本100円から（馬串　牛さがり etc）
★歯科医師会です（熊歯会報見ました）と言って貰えば生ビール１杯サービス！



新入会員 NEW

①今もっとも関心のあることは何ですか。
②自分が希望する歯科診療とはどのようなものですか。
③他の歯科医院にはない、自分の医院の特色は何だと考えていますか。
④今後の抱負は何ですか。

一般会員

井上　泰子
熊本市鶴羽田町
1044番地 3
井上歯科医院
①主人（前院長）の後を継ぎ、地域医療に努めること。
②口腔を通して、心身共に健康になれる歯科診療を行っていきたいです。自然科学者の一人であることを忘れず、歯科学の知識や技術の向上に努め、子供達、地域の方々の幸福を目指して診療していきたいです。
③口腔を全身の健康の映し鏡と考え、口腔、全身、及び精神面を考慮しながら、歯科診療を行っています。
又、女性（母親）である視点から、子供達の健康と成長を考え、歯科指導、歯科診療を行います。
④亡き主人の意志を継いで、精一杯努力します。

吉井　裕二
吉井歯科医院
熊本市城東町5-59
①高齢者介護問題。
②患者さんを満足・感動させる事の出来る治療。
④歯科医師として経営者として、スタッフと共に日々努力し理想の歯科医院をつくる。

八木　俊晃
熊本市桜町4-27
菅原歯科医院
①最先端医療、インプラント。
②誰もが負担金などを一切気にせずに気軽に受診できる歯科診療。誠意、親切、ていねいな診療。
③誠意をもって、親切、ていねいな診療。新しい良質な材料は、どんどん取り入れていくこと。
④みんなに気に入ってもらえる歯科医院にすること。

野村　澄子
葦北郡津奈木町岩城
497-1
鶴野歯科医院
①地球温暖化。
②地域のニーズにあった診察を提供したい。
③次の世代への中継ぎの開業ですが、地域に支えられた診療所だということを実感しています。
④口腔衛生の向上を啓発していきたい。

特別会員（代表歯科医変更）

渡邉　裕文

小山歯科医院

熊本市小山町
2丁目3-37

訃　報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

井上　熊男　会員
平成19年6月14日　ご逝去　53歳

- 郡市名　熊本市
- 入会年月日　昭和60年2月26日

林　嘉仁　会員
平成19年5月21日　ご逝去　55歳

- 郡市名　菊池郡市
- 入会年月日　平成5年6月22日

会　務　報　告

自　平成19年6月22日
至　平成19年7月19日

所　管	日　付	摘　　要	出　　席
総　務	6月22日	審査委員合同懇親会（熊本ホテルキャッスル）	堤会長ほか審査委員18名
		100周年記念史編集委員会 （1）本会原稿の全体の流れと校正 （2）本会原稿資料編の編集他	前野委員長ほか２委員
	23日	熊本県医師会総会（熊本県医師会館）	堤会長
		各歯科大学同窓会熊本県支部連絡会（ＫＫＲホテル熊本）	堤会長
	25日	医療・保健・福祉連携学会事前打合せ（県医師会館）	堤会長
		支払基金幹事会（支払基金）	堤会長
	26日	独立行政法人日本スポーツ振興センター福岡支所業務運営委員会（福岡市）	吉田副会長
		第３回理事会 （1）新入会員の承認　（2）平成18年度各会計収入支出決算（案）	堤会長ほか勇理事を除く全役員、有田幹事長
		第１回県医療・保健・福祉連携学会企画委員会（県医師会館）	上田副会長
	27日	第１回日学歯学術第一委員会（日歯会館）	渡辺常務理事
		社団法人日本私立歯科大学協会設立30周年記念祝賀会（帝国ホテル）	堤会長
	28日	第３回日歯理事会（日歯会館）	堤会長
		第10回日歯機構改革検討委員会ワーキンググループ会議（日歯会館）	堤会長
		藤枝社労士の人事考課に関する勉強会	浦田専務理事、西野常務理事、竹下理事
	29日	職員夏季賞与支給式	浦田専務理事
		100周年記念史編集委員会 （1）写真編ページの編集、レイアウト （2）第８校原稿の校正　（3）写真の追加依頼	前野委員長ほか３委員
	30日	日本歯科大学校友会総会懇親会（熊本ホテルキャッスル）	堤会長
		大阿蘇会定時総会懇親会（ＫＫＲホテル）	堤会長
	7月2日	福岡県中央警察署部長刑事との面談	堤会長
		熊本保護観察所長感謝状の伝達式（熊本保護観察所）	沢田事務局長
	3日	会長出務	堤会長
		副会長会議	堤会長、上田・吉田・小島副会長、浦田専務理事、西野常務理事
		第８回常務理事会（1）新入会員の承認（2）県歯入会金の分割（3）会計収入支出決算（案）他	堤会長ほか常務理事以上全役員
	4日	第14回日歯戦略会議（日歯会館）	堤会長
		第１回熊本県医療安全推進協議会（県庁）	浦田専務理事
	5日	第７回入会促進打合会（日歯会館）	堤会長
		第７回日歯常務理事会（日歯会館）	堤会長
	7月5日	第７回日歯常務理事会（日歯会館）	堤会長
		第３回熊本県保健医療推進協議会（熊本テルサ）	浦田専務理事
		後期高齢者医療打合会	浦田専務理事、渡辺常務理事、松岡・伊藤・八木理事
	6日	県歯合同委員会（ＫＫＲホテル）	堤会長ほか64役員・委員
	7日	監事月次監査 （1）平成18年度予算決算精査（2）平成19年度６月分月次監査	前野・片山監事
		100周年記念史編集委員会 （1）写真の選定・レイアウト（2）写真の依頼（3）100周年記念式典ページ（4）コロニー印刷提出原稿の確認	前野委員長ほか３委員
		熊本市歯会ビアパーティー（ホテルニューオータニ熊本）	堤会長、浦田専務理事